

ほけんだより



令和6年9月
青梅みどり第一保育園

子どもたちの笑顔を見ていると楽しい夏の思い出ができたようですね。楽しい思い出は心の栄養となり、心とカラダを成長させてくれることでしょう。

残暑も厳しくカラダの疲れも溜まりやすい時期です。朝晩は涼しくなってきましたが、寝苦しい夜はエアコンを使って心地よい眠りを促し、ぐっすり眠ることで夏の疲れを吹き飛ばしましょう。



子どもを取り巻く危険（事故）を回避するには？

9月9日は「救急の日」です。子どもが事故に遭わないために、周りの大人が子どもの成長に合わせた気配りをすることで危険を回避しましょう。（子どもの年齢にあった特徴を知ることがポイントです）

お座りの時期

- ☆じっとしているようでよく動く
- ☆手に触れたものをつかむ
- ☆自分の意思で物を動かせない



赤ちゃんは周りのもの全てに興味を示しますが危険を予知することはできません。大人が気を配り、事故防止の認識を深めることが大切です。この時期はソファーやベッドからの転落に注意してください。

ハイハイからつかまり立ちの時期

- ☆自分で移動ができる
- ☆指で小さなものつかむ
- ☆つかんだものを口に入れる



からだが大きく成長し、運動能力も大きく変化します。子どもが見える範囲や手の届く範囲が広がることを意識して、危険なものは1m以上高い場所に置くなど安全な部屋作りが大切です。タバコ、シール、電池などの誤飲に注意してください。

伝い歩きから一人歩きの時期

- ☆好奇心が旺盛である
- ☆バランスを崩して転びやすい



子どもは大人が思いもよらない物にも興味を持つため、どのような行動をとるのか見守りながら、その子にあった危険を排除することが大切です。洗濯機や浴槽への転落（水の事故）に注意してください。

走ったり飛び跳ねたりする時期

- ☆外遊びの機会が増える
- ☆視界は狭い
- ☆夢中になると他に注意が向かない



子どもは益々活発になり行動範囲も広がり、やけど、転落、交通事故などに遭う危険が高まります。危険と安全について、子どもが理解できるまで丁寧に教えてあげましょう。

子どもと一緒に「危険チェック」をしてみませんか？

- ☆家の中や庭に危険な場所や物はないですか
- ☆近くの公園、よく通る道路に危険はありませんか



子どもが外で出遭う事故の約4割が自宅から100m以内で起きているそうです。